



令和五年度

P T A活動報告（第十六号）

飛

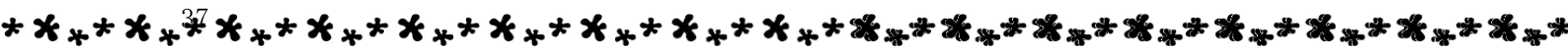
翔

島根県立益田翔陽高等学校 P T A

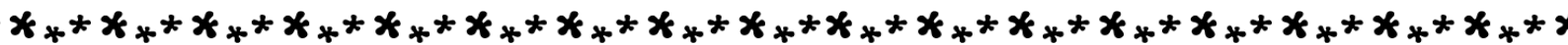
目次

題字 「飛翔」 平田 道子

巻頭言「今年度を振り返って」	3
巻頭言『地域とともに、成長する学校』	5
令和五年度 P T A 重点目標・P T A 組織・P T A 役員一覧	9
令和五年度 P T A 事業報告	12
令和五年度 P T A 役員会・正副会長会・各種委員会	13
委員会報告 生徒育成委員会報告	14
委員会報告 翔陽祭 P T A テント村について	15
委員会報告 広報委員会報告	16
誠之寮保護者会 寮生活に感謝	17
美化活動 P T A 美化活動に参加して	18
大会報告 令和5年度島根県高等学校 P T A 連合会総会に参加して	19
第七十二回全国高等学校 P T A 連合会大会 宮城大会 大会要項	20
大会報告 「第七十二回全国高等学校 P T A 連合会大会宮城大会に参加して」	21



令和五年度翔陽祭PTA村	
本部役員・	24
益田・美都・真砂地区	25
吉田地区	26
高津地区	27
安田・鎌手地区	28
中西地区	29
小野・萩地区	30
西益田・匹見地区	31
鹿足地区	32
令和五年度 翔陽祭プログラム	33
翔陽祭の様子	34
編集後記	37
副会長 牛尾 佑実	
会長 俵 宏志	
会長 大石 宗世	
会長 下地 登志夫	
会長 齋藤 孝志	
会長 田村 彰	
会長 須ヶ牟田 一史	
会長 岩本 智宏	
会長 竹内 和善	
広報委員会一同	



巻頭言



今年度を振り返って

P T A会長 齋藤 伸夫

今年度は、新型コロナウイルスも第五類へと移行し、マスクを外した方々を目にするようになってきましたが、まだその流行は治まることなく私たちの生活に影響を及ぼしています。しかし、学校行事などは徐々にこれまでのような制限がなくなり、昨年度より保護者や地域の方々の参加も可能となりました。

P T A活動では、広報委員会による活動報告「飛翔」の発行、生徒育成委員会によるあいさつ運動や街頭指導、講師を招いての講演会、P T A美化作業では休日返上で早朝より多くの皆さまにご参加いただき、おかげさまで二学期を気持ちよくスタートできたことと思います。体育祭では生徒たちの元気な、楽しそうな姿を直に拝見することができ、とても活力をもらいました。そしてP T Aテント村実行委員会による翔陽祭P T Aテント村は昨年度に続き開催することができ、どの地区も皆で意見やアイデアを出し、ご来場された方々が笑顔になり、賑わいを見せ大盛況のうちに無事終えることができました。

今年度のP T A活動は、重点目標を「P T A組織の改革」（伝統を継承しつつ、時代の変化に対応できる組織に）、スローガンを「NEW NORMAL 新たな時代の波 主体性を尊重しよう」でスタートしました。これには、今までの伝統は大事にしつつ、コロナ禍で浸透したマスク着用やリモート会議などの新しいスタイルにも対応し、自分達の意味、判断により責任をもって活動していきたいという思いが込められていました。その上で役員の皆さま、教職員の方々と今年度は何ができるのかということを考えました。

近年子どもたちを取り巻く環境が年々変化しています。昨年から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ



たことにより、生徒たちは義務教育を終えて、たった三年間で成人となります。高校卒業後、一人の大人として生きてゆくこととなる生徒のために、経験豊富なPTAの方々、先生方が、勉強だけでなく社会に出て自ら考え行動できる術を直接伝える。それがPTA活動の意義であり、生徒たちにとって有意義な学校生活になるのではないだろうかと感じました。また、大人の社会見学会に行った際、ほとんどの企業が求める人材に「コミュニケーション能力」を挙げられています。このSNSが普及している時代に対面で話をする、話を聞き理解し吸収する力を養うということは難しいことと思いますが、必要不可欠であることは間違いありません。今後の活動内容にも、生徒と一緒に話し合える機会を積極的に取り入れていければ良いと思います。コロナによる制限も解除されつつある今、今のようなスタイルがいつまで続くかわかりません。しかしコロナ禍によって変わってきた「当たり前」に対応し皆で協力することで、以前には考えつかなかったこと、思いもしなかったことを閃くかもしれません。更なる飛躍が期待されます。

私はこの度PTA会長という大役を任せていただき、人前でのあいさつ、会議で話しをするなど、人生で初めての経験をさせていただきました。この年でまだ初めての経験ができるなど思ってもいませんでした。とても貴重な経験で今後の糧になります。不慣れな会長を支えて下さった副会長、役員の皆さま、そして先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にお世話になりました。

最後になりますが、今年度のPTA活動に際しましてご参加いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。皆さまのご理解、ご協力のおかげで充実した活動ができたことを大変嬉しく思います。益田翔陽高校の益々の発展を祈念して私の巻頭言とします。

一年間ありがとうございました。

巻頭言



『地域とともに、成長する学校』

校長 福井 文生

今年度翔陽祭PTAテント村では、9つのテントが並び盛大に開催できましたこと、まずは感謝申し上げます。寒さ厳しい日曜日でしたが、笑顔あふれる翔陽祭となりました。制限なしで実施できたこと、喜ばし限りです。

さて本年は、柿本人麿没後一三〇〇年に当たることから、益田市柿本人麿公顕彰会が中心となって、「柿本人麿没後一三〇〇年祭実行委員会」を立ち上げ、8月26日・27日にグラントワにおいて「柿本人麿没後一三〇〇年祭」で記念式典や各種イベント等開催されました。本校も電子機械科3年生が課題研究において「鴨島周辺ジオリマ」をアケボノ株式会社さんと連携し、3Dプリンターを用いて作成、出展。作成期間五か月の大作です。また人麿の里全国万葉短歌大会に、現3年生と昨年の3年生が短い31音の中に様々な思いを込め作成応募し、電気科3年村田一生さんが入選しました。

また、『「益田氏の饗応料理」再現プロジェクト体験学習』に家庭クラブの6人が参加しました。これは、「益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会」主催で、中世に益田市一帯を治めた益田氏が、戦国大名の毛利元就に振る舞った海山川の珍味など約40品を木製の盆に並べ再現しました。

鎌倉・室町時代に益田を治めていた中世の豪族益田氏と、毛利氏の関係について説明します。昨年10月に、益田市で行われた中国地区学校図書館研究大会益田大会での講演会、益田市出身の元文藝春秋編集長高橋一清氏の「私が会った作家たち」より抜粋です。（以下研究集録から）

中世、戦国の時代の益田を語ります。作家の永井路子さんが小説『山霧』の準備をされていた頃です。永井さんは知り尽くして、素材を自由自在に取り扱って書くのが物語という考えです。準備段階で広島大学の岸田裕之さんの益田家の「海洋領主」「海の大名」という観点からの研究論文を読まれ、益田家のことをもっと知らなければ、毛利元就の後半生は書けないと思われました。そのころお目にかかりました時、「高橋さんの郷里の益田家は、大変な戦国大名ですね」とおっしゃいました。

毛利元就は、武力行使は最後の手段として、その前に、あらゆる方法をとります。変心、変節、裏切りは当たり前だった時代です。相手を追い込んでいく「調略」を得意としていましたが、その元就が、益田家を味方にするまでに十年かかっているのです。それほどの武力と富があったからです。日本海を安全に航行できる保証として、通行税をとっていたのです。これらを知り、永井路子さんは『山霧』の毛利元就は中年で終え、そのあとのことは歴史読み物『元就、そして女たち』として書かれています。

益田家には、中世から近代にいたる700年間の一万点余りの文書があります。これは奈良の春日大社に次ぐ名実ともに日本屈指の史料です。これらは東京大学史料編纂所で調査されていますが、これが東京に運ばれる前に、益田市教育委員会は山口県須佐の益田家邸宅に通い、江戸時代に一二五軸の卷子に装幀された一二六七点を写真に収めました。

（略）

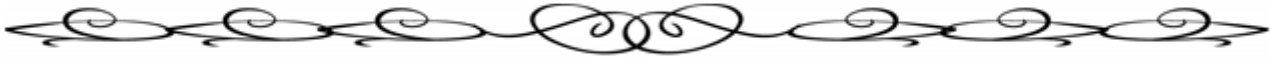
先ほども申しましたが、益田氏に対する毛利元就の策略には、底知れぬ怖さがありました。陶晴賢（すえはるたか）を厳島で破り、毛利家が石見に進出してきた時、益田藤兼は和議を申し入れます。それを受け止めようとする息子の吉川元春を、毛利元就はやめさせます。大内氏攻略のため、毛利氏は益田氏と争いの絶えない津和野の吉見氏と結んでいます。益田氏と和睦したと知ったらどうなるか。よって、和睦しているようで、そうとは言えない態度をとり続けるのです。これで吉見氏との間にも、揺さぶりをかけるのです。益田氏は毛利家への恭順を示すため富田城の尼子攻めにも加わるのです。ここで、益田氏が誇る武將を失います。山中鹿介と品川大膳の一騎打ちのことは、知っておられる方もあるでしょう。山中鹿介が秋上伊織の助太刀でやっと勝てた武將品川大

膳こそ、益田家の武将なのです。

益田藤兼と次郎親子が、毛利家の本拠吉田郡山城に出頭するのは、申し出から十年後のことでした。毛利元就の調略で兵を削がれ、戦費を費やした益田家ですが、それでも貢物は豪華でした。銭、太刀、馬、反物のほかに、虎やマントヒヒの皮もありました。益田氏の祝宴には昆布、数の子が出されました。このことから、益田氏の船が南方に、また北朝鮮から沿海州、蝦夷にまで行って交易をしていることがわかります。

今回の再現プロジェクトを通じて参加した生徒は、祝い膳の内容から当時の益田氏の勢力の大きさを、実感したところです。

変化が激しく、少し先の未来も予測できない社会をいま生きています。ここ数年を振り返っても、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻、ハマスとイスラエルの軍事衝突、AI技術の飛躍的な進歩など、予見していなかった出来事が相次いで起こりました。そうした社会の変化の速度は、生徒が社会に出る頃には一層加速しているものと思われます。ここでは、未知の状況に対応できる思考力や判断力に加え、知識や技能を更新するため、必要な学び続ける力などが求められます。それらの能力を、高校時代に様々な体験から育成していきたいと考えております。



令和5年度 PTA 重点目標及びスローガン

重点目標:PTA 組織の改革

(伝統を継承しつつ、時代の変化に対応できる組織に)

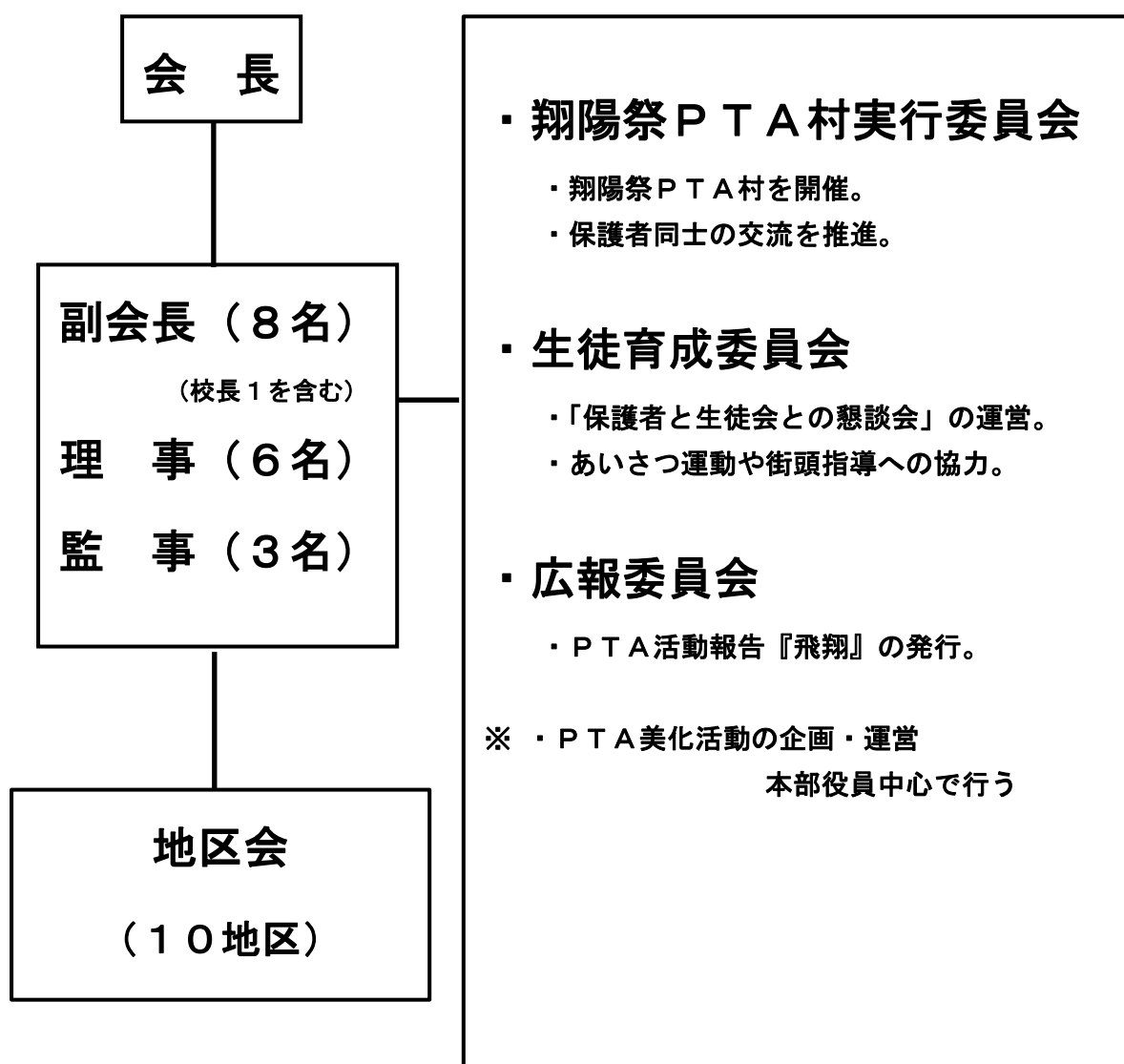
スローガン:「 NEW NORMAL 」

～ 新たな時代の波 主体性を尊重しよう ～

- 取組み
1. 学校と保護者【情報の早期共有と保護者の意識改革】
情報の強力発信(ホームページ更新、さくら連絡網配信)
情報の積極受信(ホームページ閲覧、さくら連絡網登録100%)
双方向でのシステム最大限活用(アンケート、出欠確認)
イベントや講演会等への積極参加・協力
 2. 生徒と保護者【人との関わり、社会に出るためのステップ】
あいさつ(マナーの向上・コミュニケーション力のUP)
身だしなみ(服装や髪型<清潔感>、人前でのふるまい方や
心がけ<モラルを守る>)
交通ルール(自転車での「ながら運転」をしない、させない)
 3. PTA【つながりのある活動・協力体制】
委員会活動への積極的な取組と事業の成功
保護者、教員、学校の相互理解と共同を目指す
教育環境の整備及び充実へ向けた支援
学校の進路指導の支援
部活動や学校行事における生徒の頑張りを支援
地区会の平準化と活性化
(格差是正、ネットワークの拡大、コミュニティの充実)

島根県立益田翔陽高等学校

令和5年度PTA組織図



令和5年度 益田翔陽高等学校PTA役員一覧

本部役員			地区役員		
役職	氏 名	地 区	地 区	会 長 名	副会長名
会 長	齋藤 伸夫(G2)	西益田・匹見	益田・真砂・美都	俵 宏志 (G2)	浦田 千恵 (E2) 三浦 伸隆 (S3)
副会長	渡辺 大樹 (G3)	吉田	吉田	大石 宗世 (G3)	倉本 真吾 (E3)
副会長	水津 美香(A3)	益田・真砂・美都	高津	下地 登志夫(S3)	岡崎 泉美 (E2)
副会長	大谷 佳司(A2)	西益田・匹見	安田・鎌手	齋藤 孝志 (A2)	野村 一夫 (S2)
副会長	牛尾 佑美(S2)	吉田	中西	田村 彰 (G3)	豊田 真由美 (A2) (A1)
副会長	三浦 幸(A1)	益田・真砂・美都	小野・萩	須ヶ牟田 一史(S2) (A1)	川崎 裕之 (A2)
副会長	柴田 智明(S1)	高津	西益田・匹見	岩本 智宏 (A3)	齋藤 晃信 (S1)
副会長	安野 祐紀子 (G1)	吉田	三隅	佐々木 正志(G3) (A2)	西田 靖治 (A3)
副会長	福井 文生	校 長	浜田	三浦 将史 (S3)	
監事	斎藤 貴志 (E2)	高津	鹿足	竹内 和善 (A3)	永見 友美 (A2)
	豊田 早苗 (S2)	中西			
	藤山 利勝 (G2)	小野・萩			
理事	久保 裕二(E3) (A1)	益田・真砂・美都	校内理事	教頭 : 城市 直貞 事務長 : 藤原 健司 総務部長 : 狩野 秀夫 教務部長 : 多久和 三孝 生徒部長 : 神門 良博 進路指導部長 : 谷口 和也 農場長 : 岩本 隆美 総務部員 : 金子 裕之 : 横山 孝三 : 水上 恭司 : 上黒 光一 : 田原 伸治 : 岡島 崇 : 山崎 真伍 : 吉村 翼	
	稲倉 一心(S3)	高津			
	井上 伸一(A3)	安田・鎌手			
	倉井 理香 (E2)	三隅			
	花房 律子(S1)	吉田			
	築迫 裕子(S1)	吉田			

令和5年度 P T A 事業報告

令和5年

4月13日（木）第1回正副会長会

4月27日（木）正副会長会、第1回P T A役員会（新役員）

＜会計報告・P T A総会など＞

5月14日（日）令和5年度P T A定例総会

5月17日（水）第1回街頭指導

～23日（火）

6月10日（土）令和5年度島根県高P連総会（松江市）

6月12日（月）第1回あいさつ運動

～16日（金）

6月24日（土）全国高P連総会（東京）

6月30日（金）翔陽祭P T A村実行委員会

7月14日（金）中・四国地区高P連大会岡山大会（倉敷市）

8月10日（木）正副会長会 P T A美化活動について

8月24日（木）全国高P連宮城大会（仙台市）

～25日（金）

26日（土）P T A美化活動

9月15日（金）翔陽祭P T Aテント村実行委員会

12日（木）正副会長会・第3回P T A役員会 ＜P T Aテント村開催など＞

23日（月）第2回街頭指導

～27日（金）

10月16日（月）第2回あいさつ運動

～20日（金）

11月12日（日）翔陽祭P T Aテント村

11月25日（土）島根県幼・小・中・高特別支援P T A合同研修会（松江市）

12月 6日（水）P T A生徒育成委員会活動（人権・同和教育講演会）

一般社団法人山口人権啓発センター事務局長 川口泰司氏

令和6年

2月17日（土）高P連第3回評議員会（松江市）

3月 1日（水）P T A活動報告誌「飛翔」発行

3月14日（水）正副会長会・第4回P T A役員会

＜新役員決定、来年度の年間計画など＞

令和5年度 P T A役員会・正副会長会

役員会

<第1回>

1. 日時 4月27日(木) 19:00～
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 (1)令和4年度 事業・会計報告
(2)令和5年度 事業計画・会計予算
(3)令和5年度 P T A総会について

<第2回>

1. 日時 10月12日(木) 19:00～
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 (1)翔陽祭P T A村について
(2)次年度の役員について

<第3回>

1. 日時 3月14日(木) 19:00～
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 (1)令和4年度 活動報告
(2)令和5年度 P T A役員について
(3)令和5年度 P T A委員会について
(4)令和5年度 P T A予算案検討
(5)令和5年度 行事予定

正副会長会

<第1回>

1. 日時 4月13日(木) 18:30～
2. 場所 益田翔陽高等学校 応接
3. 議題 (1)令和5年度 P T A役員などについて

<第2回>

1. 日時 4月27日(木) 18:30～
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 第2回P T A役員について

<第3回>

1. 日時 8月10日(木) 18:30～
2. 場所 益田翔陽高等学校 応接室
3. 議題 P T A美化活動について
翔陽祭P T Aテント村の運営について

<第4回>

1. 日時 10月12日(木) 18:30～
2. 場所 益田翔陽高等学校 図書館
3. 議題 (1)翔陽祭P T A村の運営について
(2)次年度の役員について

<第5回>

1. 日時 2月22日(木) 18:30～
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 (1)P T A役員の選出について

<第6回>

1. 日時 3月14日(木) 18:30～
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 (1)P T A新役員について
(2)P T A役員会打ち合わせ

各 種 委 員 会

翔陽祭P T A村実行委員会

<第1回>

1. 日時 6月30日(金)
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 翔陽祭P T A村の運営について

<第2回>

1. 日時 9月15日(金)
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 翔陽祭P T A村の運営について(最終確認)

広報委員会

<第1回>

1. 日時 8月4日(金)
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 今年度の活動について

<第2回>

1. 日時 10月12日(木)
2. 場所 益田翔陽高等学校 応接室
3. 議題 P T A活動報告「飛翔」について他

<第3回>

1. 日時 2月16日(金)
2. 場所 益田翔陽高等学校 工業棟実習室
3. 議題 P T A活動報告「飛翔」の校正について他

生徒育成委員会

<第1回>

1. 日時 8月30日(水)
2. 場所 益田翔陽高等学校 応接室
3. 議題 生徒と保護者との懇談会
街頭指導・あいさつ運動

<第2回>

1. 日時 11月15日(水)
2. 場所 益田翔陽高等学校 応接室

<第3回> 人権・同和教育講演会

1. 日時 12月6日(水)
2. 場所 益田翔陽高等学校 体育館

街頭指導 8:00～8:35, 駐輪場付近

5月17日～23日
9月23日～27日

あいさつ運動 8:00～8:35, 昇降口付近

6月12日～16日
10月16日～20日

生徒育成委員会報告

生徒育成委員長 柴田 智明

生徒育成委員会の活動として、前年度に引き続き「街頭指導」「あいさつ運動」を実施しました。元気な声であいさつを返してくる生徒もいれば、小さな声の生徒、あいさつをしない生徒と様々でした。生徒が登校してくる短い時間ではありましたが、生徒や先生方とコミュニケーションがとれ、有意義な時間を過ごすことができました。

今年度は学校からの要望もあり、講師川口泰司さんを招いての人権・同和教育講演会を開催することになりました。演題「ネット人権侵害と部落差別の現実」です。身近にあるSNSネット社会の中での人権侵害・部落差別とはどういったものか、生徒たちが少しでも理解してくれるといいと思います。

今年ゴールデンウィーク以降、コロナウイルス感染症が5類に引き下げられました。色々な制限もなくなり、コロナ禍以前のように対策は取りつつも活動ができるようになりました。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。来年度以降も生徒たちのため、PTA活動を盛り上げより良いものになればと思います。一年間ありがとうございました。





翔陽祭PTAテント村について

PTAテント村村長 三浦 宰

令和5年度役員会にてPTAテント村の村長に抜擢されました。

高校のPTA事業は今年で初めてで、最初は翔陽祭の内容などほぼわからない状況でした。

前年度PTAの方々のお力添えを頂き、進行していくという事で引き受けました。

令和4年度にコロナ明けで久しぶりにテント村が開催され、保護者の中でも経験者が少なく、各地区テント村の状況も不安でした。しかし最初のテント村役員会でその不安は解消されたのです。先生方を筆頭にPTA役員執行部の方、各地区会長の方々の意見交換の雰囲気、翔陽祭を絶対成功させるという思いが伝わってきたからです。その後も地区ごとに話し合いをして頂き、テント村役員会でもスムーズな話し合いが行われ、当日を迎えました。

当日はあいにくの雨模様で、気温も低く準備が大変でしたが、テント村が開村されると多くの保護者、生徒の皆さんに来て頂きとても盛り上がりました。私はPTA執行部のテントで、今年初めて挑戦する事になった焼き団子、去年と同様に綿菓子を販売しました。焼き団子は炭火で焼いたのですが、最初は焼き加減がわからず四苦八苦しましたが、炭火の加減でいい具合に焼けるようになり、途中からは行列ができるくらいの大盛況でした。各地区のテントも回ってみました、どのテントも大盛況で、早々と完売したテントもありました。保護者、生徒の楽しそうな会話、笑顔を見て村長を受けて本当によかったと思いました。村長として大したことはできませんでしたが、

皆さんのおかげで素晴らしいテント村の開催ができた事を感謝します。ありがとうございました。





広報委員会報告

P T A 活動の魅力

広報委員長 安野祐紀子

今年度、広報委員長を務めさせていただきました。

広報委員会の役割は、P T A 活動について、皆様に知っていただく事だ
と思い、この一年間の活動を通じて感じたことをお伝えします。

昨年度、息子が本校を卒業しました。P T A 活動については、コロナ禍
もあり、知る機会も少なかったということもありますが、私は、興味を持
つこともなく、全く携わらずに三年間を過ごしました。

今年度、娘が入学し、縁あってP T A 役員を引き受けることとなりました。
当初は、不安もありました。しかし、役員会、街頭指導、あいさつ運
動、美化活動、翔陽祭でのテント村等、活動を行い、知っていく中で、居
心地の良さや楽しさを感じることができました。それは、その活動に携わ
る方々が、とても気さくで優しく、子のため、学校のために、楽しく、そ
して真剣に活動されているということを側で感じる事ができたからです。
役員としての報酬は、やはり、本校で学び立派に成長していく子の姿を
間近に見て感じる事ができるということ!!これは、親として何よりの喜び
です。

又、多くの卒業生の方々がP T Aとして学校を支えているという事も知

り、根強く愛される学校だと改めて実感しました。

この活動を通じて、新たな出会いがあり、私自身、人生がまた豊かにな
ったと感じています。

今後も、P T A 活動に携わり、学校を盛り上げていきたいと思っています。

最後に、P T A 通信「飛翔」の発行に際し、お力添えを頂きました皆様
には感謝申し上げます。「飛翔」には、様々な活動についての報告が掲載さ
れています。それぞれ、思いの込もった魅力のある報告ですので、是非、

全てに目を通していただきたいと思います。

一年間ありがとうございました。





寮生活に感謝

寮保護者会会長 羽多尾 稔

娘は中学校までは親元から通学でしたが、三年前、製菓関係の仕事に就きたいという自分の夢のもと、この益田翔陽高校に入学しました。そして、自宅が離れていることで、入寮することになりました。入学式、その後の入寮式に出席したことが、昨日のことにように思い出されます。

今まで、家を出たことのない娘だったので、親元を離れての生活は大丈夫だろうか、正直なところ不安でした。しかし、徐々に寮での生活にも慣れていき、また、友だちもたくさんできました。学校生活も充実してきたのか、月に何回か帰ってくる時、とても喜んで学校生活・寮生活の話をしてくれるようになりました。親として嬉しく、楽しみにもなりました。

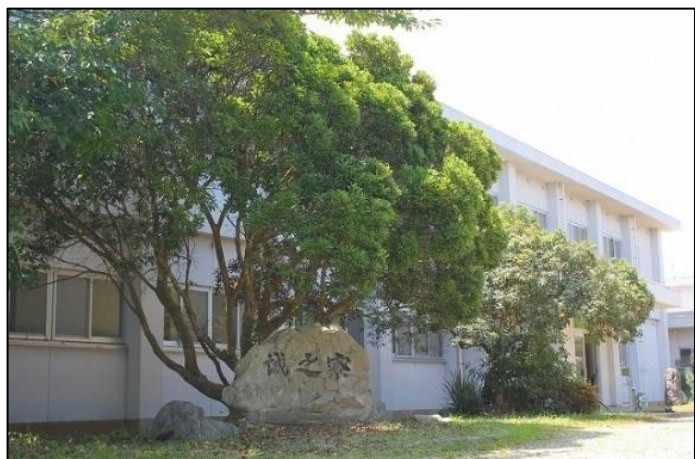
また、規則正しい生活を送れる寮生活のせいかもしれませんが、何もできないと思っていた娘が、自分のことは自分で積極的にしていくようになり、成長を感じ、同時に嬉しく思いました。

あっという間に二年、三年経ち、もう卒業を迎えようとしています。卒業後も夢に向かって、親元を離れての生活になりますが、この三年間の寮生活での体験は、必ずプラスになり、宝になると思います。

余談ですが、上の子息子二人もこの益田翔陽高校に入学し、同じように寮生活を体験し、それぞれ独立していきました。息子たちもこの学校での寮生活の体験が、今の仕事、生活にとっても役立っていると感謝しています。

最後になりましたが、勉強をはじめ、いろいろな経験・体験をさせて下さり、先生方、関係者の皆さま、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

うございました。





PTA美化活動に参加することで

PTA副会長 渡辺 大樹

今年度も猛暑の中、保護者の皆様と教職員の皆様とPTA美化活動を実施することができました。また、子供たちが部活動の練習を割いてまで参加しており、母校に対する奉仕の思いは、大変喜ばしい光景に見え、今後の社会貢献として、役に立つことがあると思います。

私はPTA活動とは子どもたちがより良い環境の中で学校生活を送ってもらえるよう保護者と教職員の皆様と協力し合う活動だと思っています。美化活動はその1つに当たります。

私が、あるPTAの会合に参加した時、『学校の周辺が草木で覆われていると不審者の隠れる箇所が多くなり、侵入しやすくなる。』という話を聴きました。益田翔陽高校は緑豊かな広い敷地面積があり恵まれた環境ですが、その手入れを怠ると、不審者の侵入で犯罪につながる危険性があることになります。その犯罪の目を摘むためには、少しでも多くの保護者の美化活動への参加協力が必要になります。そうする事により、学校周辺がきれいになり、より良い環境になる事で子どもたちが安心して楽しい学校生活を送ってもらえます。

今後も、PTA美化活動が続くことを願っています。



令和5年度島根県高等学校PTA連合総会に参加して

教頭 城市 直貞

6月10日土曜日の午後、サンラポーむらくもにて開催されたPTA連合会総会に出席させていただきました。

野津教育長他来賓の方々をお迎えし、60余名の会員が出席して総会並びに研修会があり、総会では昨年度の報告並びに今年度の行事・予算案の審議が行われました。

総会で主なことでは、令和7年7月11日（金）に、くにびきメッセを会場として第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会が開かれる事です。それに伴い、準備委員会が今年8月5日にサンラポーむらくもで設立され、続いて令和6年度中には実行委員会が設立されて、来年度から実行委員会の活動がいよいよ始まります。また、平成29年度より一般会計の支出項目に「将来準備金」が、今後予想される会員数の減少による収入減や、事務局移転に伴う経費に対応するため新設された旨の説明が改めてありました。

そして、総会に続き「成年年齢の引き下げについて」と題して研修会が行われました。松江ちどり法律事務所の遠藤郁哉弁護士により、若者の消費者トラブルから見た成年年齢の引き下げの意味と影響について、現在の若者世代に起こっているトラブルの実例を、具体的かつ分かりやすいスライドを用いてご説明いただきました。特に心に残ったことは、「金」と「美」にまつわるトラブルが顕著で、この年代に限ってではないが、人が特に興味や関心の高いモノで、巧みに悪意を持って近づいてくる人が居るという事でした。また、成人年齢が下がる事により、高校三年生・大学一年生以上は「

大人」として扱われる事になり、一人で契約できる年齢だという事です。それは併せて「未成年者取消権」を失う事を意味し、その大きな落とし穴を知らないことが問題点だということでした。

悪意を持って近づく者はこれらの事を熟知し、手持ちのお金がなくとも、借金やローンを組む事が「できる」人に、言葉巧みに誘ってきます。更に厄介なことは、若者が騙されていることに気づかないままに、知人や友人を勧誘し、気づけば自分が加害者の側になっていったという、洒落にならない実例も多々あるそうです。普段何気に聞く社会の動きも、知らないことで大きな社会問題の当事者にも成りうることもある事に、改めて気づかされ反省する講演でした。

最後に、今回このような有益な講演を聞く機会をいただき感謝申し上げますとともに、今後の本校PTA活動にご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、総会参加の報告とさせていただきます。



大会テーマ 「豊かな杜^{もり}につむぐ虹の光」
～しなやかな強さで生き抜く力～

◆大会趣旨

それでも果てしないこの海を、美しい季節が移ろうこの大地を、蒼く澄みわたるこの大空を、人々の思いが息づくこの杜を愛し、ただただ光差す方へ一歩ずつ歩いてきました。しかし世界は不条理にも、千年に一度の大震災に留まらず、人類が直面する最大の災禍と呼ばれるコロナ禍が私達の人生を更に激震させました。

幼少期から途方に暮れる思いを乗り越えてきた高校生たちは、これからも VUCA 時代を生きていきます。そんな彼らが夢や希望を膨らませ、幸せに生きていくためには、教育 DX による多様な学びや STEAM 教育など新時代に即した環境と質の充実、多方面からの手厚いサポートはもちろんのこと、子供たち一人一人が、何度荒波が襲いかかってきたとしても、強くしなやかに乗り越えていける力が必要ではないかと考えます。その力を育むために、日々、家庭や学校、様々なコミュニティ、多くの体験から感じる感動や優しさ、感謝の気持ちなどの心の豊かさと、美しいふるさと地球の自然の豊かさに触れ、安心感や幸福感を得ていくことが大切だと思います。多様な子供たちが、格差や差別などの弊害を感じることなく、自分らしく可能性を最大限に発揮できる持続可能な社会と一緒に形成することこそ P T A の役割ではないでしょうか。本大会では、その具体的な働きかけについて、様々な角度から皆様と共に考えていきたいと思ひます。

たとえ世界が終わるのではないかと思うような大事があっても、私たち大人が、全ての子供たちを命がけで最後まで守りぬくことこそが未来の光になります。子供たちがどんな人生の暗雲も切り拓いて、虹色に輝きながら、光差す未来へ力強く羽ばたいていく景色を共に創り上げていきましょう。

この宮城大会は、東北の未曾有の被害に温かな手を差し伸べてくださった全国の皆様へ感謝の思いを込めて創り上げて参ります。

VUCA 時代 …将来が予測困難な時代。Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字を組み合わせた言葉。STEAM 教育…Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (リベラルアーツ) を統合的に学習する教育手法、Mathematics (数学)

※VUCA (ブーカ) と読む STEAM(スチーム)と読む

DX とは、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること

全国大会報告

第72回全国高等学校PTA連合会大会 2023

宮城大会に参加して

校長 福井 文生

8月24日(木)と25日(金)の2日間、「第72回全国高等学校PTA連合会大会 2023 宮城大会」が実施されました。本校を代表して私が参加しました。

本年度のテーマは「豊かな杜につむぐ虹の光くしなやかな強さで生き抜く力」。24日猛暑の中、開催県の宮城県PTAの皆さんの温かいお迎えを受けながら、「カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）」に入場しました。全国から6000人が参加し、全体会会場は満席で、座れない人も多くいました。

日程は左記のとおりですが、何と言っても今大会の目玉は仙台育英高校野球部の須江航監督の記念講演。1年前から講師に決まっていたとのことですが、前日の夕方に甲子園全国大会から仙台に帰ってきて、その翌日の午前中の講演となり、大変ハードだったと思いますが、その様子を見せることなくユーモアを交えながら約1時間、興味深いお話を聞かせてくださいました。

日程

（8月24日（木））各分科会（6会場毎に同時進行）

↓分科会↓

分科会1 「地域教育」

分科会2

「学校教育」

コミュニティスクールとグローバルの光
↓地域教育魅力化の取り組み↓

ICTで広がるキャリアデザインの光

↓多様な挑戦で広がる世界↓

分科会3

「レジリエンス教育」

強く生きるための多様性と

コミュニケーションの光

↓自己肯定感と

逆境から立ち上がる力を育む↓

分科会4

「情報交換会」

with コロナ

post コロナにおけるPTAの光

↓皆さんで語り合おう↓

分科会5

「防災・減災教育」

いのちと希望を

未来につなぐコミュニティの光

↓教訓から自助・共助の力を育む↓

分科会6

「主権者教育」

シチズンシップ教育が育む

新たなデモクラシーの光

↓現代的諸課題を乗り越える力を育む↓

私は第2分科会に参加しました。

「ICTで広がるキャリアデザインの光」↓多様なデザインで広がる世界↓
というテーマで広島工業大学教授の安藤明伸氏によるAI時代に求められ

る学びとキャリアの変化、それに伴うキャリアデザインと未来の展望について基調講演がありました。

講演後、教育現場へのICTの導入で高校生が広い視野を持ち自身のキャリアを考える機会が増えている昨今、教育現場でのICT活用実態と課題を保護者向けに共有する形で安藤氏と3名のパネリストでディスカッションをしてくださいました。保護者世代が教育を受けた時代とは違い、社会がデジタル化していく中で子どもとともに、大人も成長していかななくてはいけないと感じました。

〈8月25日(金)〉全体会…会場はカメイアリーナ仙台(仙台市体育館)
約6000人参加

9…00 アトラクション

2002年に宮城県広瀬高校の同級生を中心に結成された「白A」という近未来型エンターテインメント集団によるパフォーマンス。プロジェクションマッピングを駆使し、これまで世界31カ国で講演。

9…30 開会行事、表彰式

10…40 記念講演「伝わる言葉・失敗から学ぶしなやかな強さで生き抜く力」

講師 仙台育英学園高校野球部監督 須江航氏

12…00 閉会行事

記念講演

講師 仙台育英学園高等学校野球部監督 須江航氏

演台「伝わる言葉・失敗から学ぶしなやかな強さで生き抜く力」

〈本日のテーマ〉

1 育成・「情熱と素直さと粘り強さ」と 肯定的であること

2 目標・「人生は敗者復活戦、1度かえる」 小さなことから

3 人と目標・「短所と長所の関係性」 あざとくて何が悪いの？

4 組織力の言葉・「伝わる言葉」 欲しいものしか求めない

5 まとめ・「目標設定と思考の整理」 再現性はどこにあるのか

講演は、自己紹介から始まりました。埼玉県出身で、憧れから仙台育英に入学し野球部に入部したものの、周りのレベルが高すぎて2日間で「来るところを間違えたと感じた」と。

本題は上記の5つのテーマに沿って話が進みました。甲子園大会の決勝後に語った「人生は敗者復活戦」の座右の銘を挙げ、選手になることに見切りを付けて学生コーチを経験した高校時代を紹介し、「自分は言葉と知識しか部員に提供できない」と強みに変えた経緯を紹介。

今年の決勝後のインタビューで「2年間で頂点、あとひとつの悔しさ、ともに味わうことができた。人生は敗者復活です。この経験を次に生かします」と言われました。失敗から学べるということ。「成功は再現性がなく、学べることはないと考えている。昨年の優勝は運がよかったのであり、成功は人、時代、タイミング、偶然などが合致して起こる。同じようにやっても得られるものはない」と断言。「逆に失敗の中には時代を問わずた皆さんのヒントが隠されている」と言われました。

また「伝わる言葉は相手が聞きたい言葉」という持論も展開。情報量が多い時代に、若い人は小さい頃から選択することに慣れているとして、「相手が何を知りたいのか、相手に聞くしかない」とコミュニケーションの重要性を説きました。最後に部活動について、大人になり壁にぶつかったときに思考が戻ってくる場にしたいとの思いがある。だから、自分は挑戦して失敗させる、と。6000人の聴衆を「須江ワールド」に引き込んでいまし

た。

全国から集まったたくさんのPTAの方たちと一緒にとても有意義な2日間を過ごすことが出来、大変勉強になりました。来年は茨城県で全国大会開催予定です。





翔陽祭PTAテント村を終えて

PTA本部役員 牛尾 佑美

今年は、雨が降り、気温も低く、とても寒い中でしたが、4年ぶりの入場制限がない翔陽祭ということもあり、地域の方、翔陽OBの子など、多くの方が来てくださり、どのテントも早い時間で売り切れになったそうで大盛況だったのではないかと思います。

私は昨年に続き、本部役員のテントに参加しました。本部役員テントでは「焼き団子」と「綿菓子」を販売しました。特に「焼き団子」が人気で、大行列が出来、開始から2時間半で完売しました。「綿菓子は」小さい子や女子生徒に人気があり、最初から最後まで、ずっと販売できました。買ってくださった方が「おいしい」と笑顔で食べてくれる姿を見て、とても嬉しかったです。

テント村に参加したことで、いろいろな地区の方とふれあえたり、子供たちが模擬店を一生懸命運営し成功させている所を見ることが出来たり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。来年もテント村が開催されることを願っています。

最後になりますが、本部役員の皆さん、ありがとうございました。楽しかったです。





久し振りの一般参加でのテント村

益田・真砂・美都地区会長 俵 宏志

今年度のテント村は、新型コロナウイルスが五類に移行し、久し振りに制限のない、一般参加での開催となりました。私は昨年度参加しておらず、初めて地区会長としての参加となり、当初から少々不安がありました。

最初の会議から出席者が少なく、経験者も少なかったので、とりあえず昨年と同様の催し物に決定しました。その後、具体的な実施内容の打ち合わせの際、必要な人数を経験者に伺いました。参加可能な人数把握をする必要があり、急ぎ文書により参加の可否を照会しました。会議の出席者が少ないことから、数によつては出店断念も考えられましたが、昨年と同程度の参加者数が確保できホッとしました。

事前準備に関しては、その種類、数量、そして、商品の発注等を経験者に助言、協力をいただきながら進めることができました。ただ、昨今の物価高騰で予定来客数に対して、十分な商品が準備できるか不安がありました。商品受領の際、くじ付きの商品の提案やサービスをいただき、これでお客様に楽しんでいただけるのではないかという思いになりました。

当日はあいにくの天気で気温が低い中、参加者全員でテント、テーブル等の設置、商品の準備、手順や動線の確認等を手際よく行うことができました。あとは来客を待つのみです。

最初はなかなかお客様が来られず、少し心配でしたが、生徒の皆さんや一般の方々まで、時間制限を気にしながら夢中になって楽しんでおられました。参加者も一緒に楽しんでいる様子で、とても良かったです。

最後に、保護者の方々、先生方には、打ち合わせ、事前準備、運営にご協力いただき、ありがとうございました。





翔陽祭テント村に参加して

吉田地区会長 大石 宗世

前任の会長より役員依頼の電話があり、あまり何も考えずに引き受けた地区会長。メインの仕事は翔陽祭でのテント村への出店とのこと。気安く受けたものの、翔陽祭が近づくにつれ焦り始めました。

前年度の様子がよくわからない中で、昨年参加された方に聞いたり、出納簿のレシートを確認し必要なものをそろえました。前日にか準備を終え、いざ当日。

当日は、保護者の方にご協力をいただき延べ20名の方にご参加いただきました。吉田地区は前年度から引き継ぎ白玉ぜんざいを出店しました。しかも栗入り!! 栗は好みで♡

テント村の日は、天気が微妙であったかいぜんざいは、たくさんの人に来ていただきました。今年は一般の方の参加もありということも相まって、用意した食材はぜんぶ売り切れました。なんと171杯。大盛況㊗️。材料として、白玉団子を7.2キロ・あんこを8.6キロ要していたのですがすべてなくなった時は、小さな歓声が上がりました。生徒たちにたくさん来ていただき、おいしそうに食べてくれる顔を見るのはとても嬉しかったです。

今回、無事に終わることができたのは、食べに来てくれた人たちはもちろんのこと、ご協力いただいた地区の保護者の方のおかげです。経験のあ

る方も、初めての方もとても段取りよく、作業していただきました。改めてお礼申し上げます。

これからもPTA吉田地区の活動が続いていき、テント村で活躍することを願っています。





翔陽祭PTAテント村を終えて

高津地区会長 下地 登志夫

コロナ禍開けた昨年、2年連続して、高津地区会長として活動させて頂きました。今年も、昨年と同様に、シュークリームとジュースの販売、有志を募りフリーマーケットも試みました。今年は天気も悪く、少し出足が悪く苦戦しました。

高津地区として「白バラ」のシュークリームを毎年恒例として販売していて、それを楽しみにしてくださる方がいることを、2年経験して、恥ずかしながら知りました。楽しみにしてくださる方がいる限り、この翔陽祭での販売は継続の価値があるとつくづく思いました。

また、ふだん交流のない高津地区の保護者とのふれあい、他地区の保護者とのふれあい、そして、生徒たちとのふれあい、とても楽しい時間でした。子どもたちもいろいろ工夫して模擬店を立派に成功させていました。保護者も子どものために、これから先も大人の知恵を出してだして、協力を惜しまずに、翔陽祭を成功させて頂ければ嬉しいです。

最後になりますが、今回お手伝いして頂いた保護者の方々には、この場を借りて、お礼と感謝を申し上げます。





翔陽祭を終えて

安田・鎌手地区会長 齋藤 孝志

前年度の地区のPTA総会において、次年度の役員を決める時、正直 誰も役員はしたくない雰囲気まんさいであった。前回の翔陽祭にお手伝いとして参加させてもらっていた為、大体の雰囲気もわかった事と、祭事の段取りをするのも嫌いでなかったので、この度、地区会長を引き受けることとした。大きな行事の翔陽祭において、保護者の皆さんに集まってもらい、今回は何をするのか話し合いをしました。色んな意見の中、時期も11月でもある為、温かいうどん・そばをしては？と提案があった。皆さんの意見もさまざまあったが、結果としては、温かいうどん・そばを出すことが決まった。数日後、生徒がうどんを出店する予定だと、他の保護者さんから話を聞いた為、急遽温かいうどんは取りやめ、温かいそばをする事とした。さあ、そこでなにか準備をしようか？まずは食材のリストアップ、当日学校での調理は切ったり等々は禁止との事であった為、全て調理済みの食材を購入する事とした。幸いに保護者の中にスーパーに勤めている方がおられ、食材関係全て一手に引き受けてもらえた為、正直 買い出しの手間がなくなり一安心であった。後は麺を茹でる大鍋・湯切りをするざるを準備するのに、かなりあずった！！翔陽祭当日は、色んな地区で文化祭が開催していた為、この地区もうどん等するとの事で、道具の貸し出しは無理だと…さあそこであらゆる公民館をはしごしなんとか道具をゲットし一安心。当日の翔陽



祭朝雨模様で寒かった。準備万端、お客さんを待つばかり。保護者の方で呼び込み上手の方がおられ、開始時間早々2時間足らずで200食が完売した。皆さんのおかげで地区の出店が成功で終わった。お手伝いしてくれた方、購入してくれた方に感謝・感謝でした。ありがとうございました。……



翔陽祭PTAテント村

中西地区会長 田村 彰

令和5年11月12日、少し肌寒い中、翔陽祭が行われました。中西地区は「焼き鳥」の販売を行いました。学生、保護者、そして教職員の皆さま方が一丸となったおかげで、大きなトラブルもなく、多くのお客様が来店されました。その中で、作業をしていた私も自然と笑顔が漏れました。収支のほうも特段に利益が出たわけではありませんが、赤字にもなりません。店を準備し、商品を作り、そして、パッケージをして売るという一連の作業のそれぞれを体験し、学ぶ良い機会になったのではないかと思います。

飲食店をしていたのが私たちの地区だけではなかったので、学生たちは複数の店を観察することができ、次のことを無意識に考えたのではないかと思います。いかに自分たちの商品を魅力的に見せるか、そして、いかにサービスを提供するか、です。近くに遜色ないライバル店が多くあったからです。ある意味、翔陽祭は小さな「社会モデル」でもあったのではないかと思います。従って、一般社会でよく言われる「PDCAサイクル」を循環させることが、その日何度もあったと思います。学生の皆さまの一人ひとりが今後、進学するのか、社会にでるのかはわかりませんが、きっと彼らの糧になったことでしょう。

最後になりましたが、このような学びの場を提供してくださった翔陽高



校の教職員の皆さま、保護者の皆さま、その他の皆さまに、大変感謝しております。私の娘にとっても最後の学園祭となりました。月日がたった時に、きつと今日のことを思い返すことがあるでしょう。そして、今日の日が良き思い出になっていることを切に願います。



翔陽祭テント村

小野・萩地区会長 須ヶ牟田 一史

小野・萩地区では、手作りアクセサリ、水産加工品、須佐エコバックを販売しました。当日の朝、小雨の降る中で、テントの準備、テーブル、販売物を並べたり、テキパキと準備ができました。

開始が九時からで、7時からの準備にはかなり時間が空いてしまいました。ブースは食べ物を買わず、調理等の準備もなかったので、もう少し準備時間を短くしてもよかったかもしれません。今年は入場制限もなく、一般の方も来られました。9時を過ぎるとだんだんと人も増えてきました。私たちのブースは物品の販売のため、周りの食べ物を扱っているところに比べて、なかなか売れない時間が長く続きました。寒い中、お手伝いに来られた方と周りを見ながら「やっぱり、温かい食べ物強いねえ」なんて、話をしていました。

テントの中では、保護者同士で会話も多く、特に「どうやって売れるか」を考え、テーブルの位置を変えたりと、わいわい言いながら行いました。

小野・萩地区は世帯数も多くなく、話をまとめるのも、皆さんの協力でなんとか無事に終わることができました。

今後も、世帯数の減少等があり、継続していくには何か新しいアイデアが必要になるかもしれません。ただ、ブースの中から、楽しそうにしてい

る生徒さんを見てみると、続けていかないといけない、と思いました。
みなさん、ありがとうございました。





大盛況のテント村

西益田・匹見地区会長 岩本 智宏

5月26日・8月4日の2回、西益田・匹見地区集會にテント村について話し合いを行いました。参加人数が名簿世帯数より半分以下の人数で、運営自体が不安でした。

話し合いの結果、昨年同様アイスクリームと新しくフランクフルトで決まりました。アイスクリームは昨年と同じような形で売り、フランクフルトに関しては、どのような形で販売したらよいか悩みました。そこで、コンビニを運営されている元翔陽高校保護者さんに相談すると、本社の了解を取って頂き、コンビニ店と同じ袋とケチャップ&マスタードを使って販売できることになりました。また、テント前に飾るポップも皆さんが上手に作成され、アイスクリーム保存用冷蔵庫・フランクフルト暖め用ホットプレートなどを準備していただき、様々な方に助けていただきました。

テント村当日に参加していただいた方は、地区集會には参加されていなくて当日参加の方がおられ、地区世帯数の三分の二の方が参加していただきました。

気温が低い日でアイスクリームが売れるか心配しましたが、保護者と先生方が場を盛り上げていただいたので、アイスクリーム・フランクフルト共に、終了時間の一時間前には売り切れてしまいました。このまま、



来年テント村を開催した時は、もっと盛り上がるのではないかと感じました。運営も、各学年保護者で時間分けたことで、子供達の催し物も十分に見て回ることができたと言ってもらい、負担が少なかったので、時間分けも必要だと感じました。個人的にはテント村の役員会が数回あり、他地区の会長さんと話をする機会が増え、当日はお互いの地区のやり方について話ができ、自分のプラスになりました。

しかし、テント村参加について仕事やどうしても参加できない理由がある場合は仕方ないですが、不参加の方もおられて残念でした。半年以上前から一保護者が代表で會議に参加し、段取りをしないといけない人達のことを考えて（自分ならどう思うか想像して）テント村参加の可否を決めてもらいたいです。

当日お手伝いいただいた保護者。元保護者の皆様には大変お世話になりました。

最後にテント村が無事にできました事を心より感謝申し上げます。



1年間をふりかえって

鹿足地区会長 竹内 和善

一年間PTA役員として参加させていただき、お世話になりました。
ありがとうございました。

PTA会長さんをはじめ、各役員さまの努力で、今年一年翔陽高校が飛躍できたのではないかと思います。お疲れさまでした。私自身は今年ほとんど会議に参加できず、申し訳ありませんでした。

毎年、たくさんの方の保護者、先生方、生徒さんの協力で、高校敷地内の草刈りをしています。皆さんの協力がないとできない事だと思います。これからも続けていってほしいと思っています。

翔陽祭は、私は参加できませんでしたが、鹿足地区の保護者の皆さまの協力で、地区としてテント村に参加することができました。心からお礼申し上げます。コロナの制限が解除され、昨年よりは時間も延長され、大変だったと思います。昨年と同様、焼き菓子、ジュースの販売でしたが、完売することができました。ありがとうございました。鹿足地区は人数が少なく地区の範囲が広いので、何かと苦労も多いかもしれませんが、子どもたちのために、何か協力したいという気持ちは大いに感じました。

私は今年で保護者としては卒業となりますが、これからも引き続き、鹿足地区が盛り上がりつついくことを願います。一年間ありがとうございました。

ました。



令和5年度「翔陽祭」 11月10日(金)～12日(日)









編集後記

今年度、翔陽高校のメインイベントである翔陽祭が盛大に開催されました。コロナが5月から5類に移行され、マスク生活からも開放されたことで、コロナ前と変わらないくらい制限もなく行われた事はとても良かったと思います。

特に、昨年に引き続きテント村がスムーズに開催出来たのも、経験がある役員や保護者の方のお陰だと大変有難く感じました。本当にありがとうございます。改めて、みなさんの生徒やPTA活動に対する思いを感じることができました。

そして、皆様のご協力により「飛翔」を発行する事ができ、広報委員としても大変嬉しく思います。この、飛翔を通して多くの方がこのような活動をしていると言う事に興味を持って貰えれば幸いです。

まだ、ウィルスとの共存する生活が続いていますが、これから翔陽高校のPTA活動がより良い方向に進んで行く為に、これまでの伝統を受け継ぎながら時代にあった新しい形にして行けるよう、今後益々の発展を心より願っております。（築迫 記）

広報委員会 委員長 安野祐紀子

委員 牛尾 佑美

委員 築迫 裕子

委員 花房 律子

委員 稻倉 一心

委員 倉井 理香

飛翔

令和6年2月29日 印刷

令和6年3月 1日 発行

